



三重県津市 藤崎 昇さん(54歳)
 (前列中央：NPO法人設立総会にて)

国内林業の再生を志し、林業の道を行っていた藤崎さん。昨年12月、新たにNPO法人『もりずむ』を設立、その思いを語っていただきます。

【我々が林業最後の世代か?!】

これが冗談では済まないほど、林業は衰退を極めていきます。私の住む津市でも林業従事者は減り続けていて、素材生産業者、いわゆる「木こり」は民間では2社しか残っていません。そして、そこに息づいてきた地域社会や文化も途絶えてしまう危機に瀕しています。その大きな要因の1つに木材価格の低迷がありますが、今でも年々厳しくなるばかりです。



写真：津の山々の原風景

【大きな社会のうねり】

地域の社会、文化が息づいた『持続可能な暮らし』をつくるためには、循環型産業の要である第一次産業、農林水産業の再生が不可欠です。そして本来、第一

次産業は地域の暮らしを支える「誇り高い」仕事なのです。その認識は社会的にも徐々に広まりつつあり、三重県内でも、森や里山の手入れをするボランティア団体や、“地元の木の住まい”の普及を目指す「みえ木造塾」など、さまざまな活動が取り組まれるようになりました。



写真：地元木材をふんだんに使った住まい

一方、シックハウス症候群、化学物質過敏症などアレルギーや環境の問題から、安心・安全・快適な暮らしが求められています。無垢な木材は、化学的に安全であるばかりでなく、有害物質を吸着除去する働きも有しています。また、肌触りが心地よく、香り成分が精神を安定させてくれます。

となると今、地域の存続と安心・安全・快適な暮らしのために、林業の再生が求められているのではないか！“誇り高い仕事”として林業を再生できる大きなチャンスではないか！と思うに到りました。

【自分たちから始めよう!】

そこで仲間と集まり、社会貢献ができる「持続可能な林業」を目指して、『NPO法人もりずむ 暮らしと森をつなぐ会』を立ち上げました。活動方針は、「木を育て伐採し、製材販売するという従来の林業を主軸としつつ、消費者に森林・林業に触れ、森と木材の素晴らしさを楽しみながら理解してもらおう場を提供する」とい

うものです。メンバーは山林所有者、素材生産業者、製材所、木材市場、子育てネットワーク代表、一般消費者など、幅広い分野から集まった11名です。代表的な事業は次の通りです。

○ スローウッド「もりずむの木」

木材が本来有している香りや耐久性などの特性を最大限引き出し、付加価値を高めた木材を長く大事に使ってもらうことで、価格の適正化を図ります。



写真：葉枯し乾燥しているところ



写真：乾燥後、製材して露天で天然乾燥（半年）



写真：その後は屋内で天然乾燥（半年）

○ 木の里親事業「木太郎（きたろう）プロジェクト」

森林施業などの参加体験型イベント事業

※参加者が木1本1本の里親となり、森林で下刈・枝打・間伐など木を育てる体験をし、また伐採した木材を使って木工品、家具、家づくりなどを体験することで、森のファンを増やします。

○ 木材についての研究

大学などと共同で研究を行い、伐採や乾燥方法など、より優れた木材を追求していきます。

【法人設立までの経緯】

私は、40歳までは東京の土木建設コンサルタントのエンジニアとしてダム、河川の計画・設計に携わっていました。社会資本整備という「暮らしの縁の下の力持ち」に憧れて進んだ土木でしたが、実態は「事業のための事業」。もちろん、必要な事業もありますが、業界の規模は小さくならざるを得ない状況の中、無理矢理事業化している現実に失望しました。そんな中、自然農法・福岡正信氏の「わら一本の革命」、ローマクラブの「成長の限界」、レスターブラウン氏の「地球白書」、稲本正氏の「オークビレッジ」などに触れ、そして15年ほど前に「地球村」に出会いました。「地球村宣言」「転生と地球」「オーケストラ指揮法」など多くの著作を読み漁りました。大きな衝撃を受けながら考えていくと、気持ちのモヤモヤが吹っ切れていきました。

「社会は今、大きな変革期にある。変わらないと人類は持たない。第一次産業中心の社会になるべきだ。でも、現状では中々変わっていかない。待っていても辛いだけだ。だけど、自分に何が出来るか？第一次産業にいきたい。でも、家族3人（当時小学生の息子2人と妻）を食わせるのか？林業であれば、これまでの土木の経験を生かして何かしら役に立てるのではないか？林業にチャレンジしてみるか？きっと出来る、そう思える。変

わろうと思ったこの気持ちを大切にしたい。よし、自分から変わろう！」
そんな思いに到達、2000年7月に三重県の森林組合に転職しました。

それから12年間、建築材、木工品の製造販売、公園整備などを通じて国産木材の普及に取り組みました。そして、素晴らしい出会いがあり、多くの仲間との繋がりができました。

消費者との繋がりも求めて、「木こり」「植林」「焚き火」「木の器づくり」「灯りづくり」「マイ箸づくり」、住まいの「完成見学会」などさまざまな体験イベントを開催しました。そして参加者の笑顔に触れる度に、森と木材の持つ大きな力を確信しました。



写真：木こり体験



写真：マイ箸づくり

しかし、事業収支的には赤字で非常に厳しい状況が続きました。大量生産・販売の従来の流れを少量生産・販売に切り替えるには、中途半端な取り組みでは無理でした。もっとこだわった取り組みをして付加価値を高めた木材を理解ある消費者へ提供する。木材は、樹木という「命」からの頂き物です。工業製品とは違います。木材1本ごとに個性があり、表情も強さも癖も違うのです。その特性を見極めて使うことで、長く大事に使うことができるのです。法隆寺では1300年もの間、建設当時の木材がそのまま支えているのは、そういった気配りがあったからです。

木の個性を見る林業、大量生産とは一線を画した「手作り林業」とでもいうような林業を目指そうと思いました。

そのために、仲間との連携を強めつつ、森林と木材のファンを増やすような活動

をもっと積極的にやっていこうと考え、昨年6月に組合を退職して、NPO法人を設立することになりました。

【森のリズムを感じながら♪】

『もりずむ』は、昨年末に設立登記が完了したばかりの出来立てホヤホヤの団体です。『もりずむ』の名前は、「森に住む」、「森のリズム」が由来となっています。森で思いきり遊ぼう！森の恵みを暮らしの中に連れてこよう！何十年もかけて育つ森の様にゆったりとしたリズムで落ち着いて暮らそう！といった思いが込められています。『もりずむ』の活動はスタートしたばかりですが、そういった思いを胸に抱きつつ、メンバーや参加者とみんなで楽しみながら、森の歩みのようにしっかりと、一步一步着実に、暮らしと森をつなぐ役割を担っていけるよう頑張ります。そして林業を元気にすることで『持続可能な社会』へ少しでも貢献したいです。『地球村』のみなさん、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします！



写真：伐採された切り株の脇で育つ松の子ども

■ NPO 法人もりずむ

<http://morhythm.org/>

〒514-0821 三重県津市垂水 1389-1

HP 090-5458-6898(藤崎)

FAX 059-229-3540

メール noboru.fujisan@gmail.com